

町政モニター感想文 ②

「町政モニター」は、住民の皆さんの町政に対する意見を広く聴かせていただき、今後の行政施策に反映するとともに、参加者の皆さんに、まちづくりなどについて考え、行政問題の解決策の立案に参加する機会としていただくことを目的としています。

平成13年度に参加された皆さんの感想文を、本誌上で数回に分けて掲載しています。

片桐 由記江

モニターに選ばれた時は微かな期待がありました。会議の度に落胆していき、町職員の耳の痛い話題には触

れない姿勢でモニター会議を開催されても一向に改善されないのではないのでしょうか。

逃げないで問題に向かって取り組んで行く姿勢を見せて頂きたいと思うが、熊野町として町政モニターにはそこまで求めていないのでしょうか？

町民の生活状況・考え方と意識、町から町民への伝達状況の把握、地域での活動・様子、行政への要望・関心、熊野町役場の役割・任務・活躍等をモニターに聞きたかったのか最後まで見えてこなかった事が、非常に残念でした。

町の役職員の中には、前向きに一生懸命取り組んでいる若い町職員の芽を伸ばすどころか逆に芽を摘み、町民の窓口職員の意見が反映されていないのでは？

この姿勢はモニター会議でも同等でした。何がこうさせるのでしょうか。

そうした中にもかかわらず、町政モニター会議に参加したメンバーは、一生懸命に考え前向きに取り組む、町からの回答が出ないものは、個人的に知り得た知識をそつと差し出して頂け、熊野町民を少し見直せ良き人間関係が得られた事に感謝致します。

熊野町には、偉い者がいないと言われていると思いますが、良き人材が揃っていると思います。その方々が活躍し、熊野町が心豊かに潤い本当に『三世代が住みよい町』にして頂きたい。

私が熊野町に転入して最初に感激した出来事は、後向きで作業をしていた私に、見た事もなかった小さな子供達が大きな声で挨拶を交してくれた事でした。近所の老人にこの件を話すと『その子はぎつと、お年寄りの居る家庭に育っているのだろう。熊野町は、何が出来んでも『挨拶だけはせんにゃいけんよ』と、躰てきたからね』と、誇らしげに話されていたが、どこでどう変わったのか、それから16年

余も経つとこの様な光景が嘘の様になり、誠に残念でしょうがない。更に追いつきをかけるように、子供会の脱会及び入会拒否の問題を抱える地域、これらの梃入れは誰が成す立場なのか、それすらも判らず放置のままである。

私の住む地域には町会議員が2人在住しているが話題にもならないのでしょうか？これらを相談する機関は？形だけの自治会長及び町会議員は必要でしょうか？

私にとっては生活に密着した事項が一番切実な問題です。一刻も早く対応して頂ける様切にお願い致します。その意味でも自治会長さんの役割をはつきりとさせて頂き、いつでも気軽に住民の相談にに応じていただける様、町の方で指導して頂きたい。

何がよいのか悪いのか判りかねるが、今のままでは子供達は健全に育たないことだけは、はつきりと言えるのではなからうか。教師も採点され不適格者は教職を去るようになり一般人が教師に採用され

る様に変わりつつある件は本当に喜ばしい事と思いましたが、でも、社会での子供達の受け入れ体制が非常に遅れ焼石に水ではないでしょうか。

子供達は、学校で育つのではなく、社会で育んでいくのです。その力こそ社会人になった時に役に立つのではないのでしょうか。いち早く社会の環境づくりをして頂きたい。その事が『三世代が住みよい町』の原点ではないでしょうか？

役場のホームページの質問に対しては係の方の主観が入りすぎる。もっとフェアに為さる必要があると思います。担当職員の方々がもっと社会を見つめて心を持って取組んで頂けたらよい道が開けるのではないのでしょうか。

役場と社会にはギャップがあるという事が良く判りました。有難う御座いました。